

# 『時事直言』 No.1618 2023年8月21日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] t\_masuda2019/

[instagram] t\_masuda2019/

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[twitter 英語] T\_Masuda\_eng/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

## 米中冷戦などお笑い草

トランプ政権以来アメリカは中国に対して制裁関税のみならず半導体関連装置や部品の禁輸などで中国経済を追い込んでいる。

ゼロコロナ政策の経済不況から立ち上がろうとする中国経済にとってアメリカの経済制裁は中国にとって弱り目に祟り目である。

バイデン大統領は知らないだろうが、私はいつもアメリカが中国にやっていることは麦踏みのようなものだとやっている。

将来風雨に負けないような強い麦にする為であり、又かわいい子供に旅をさせているのである。

誰もが米中冷戦だ、米中通貨戦争だと言う。

BRICS(振興5か国:ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)や反米、非米諸国がドル基軸に代わる地域共通通貨の創設の準備をしているが、それはあくまで理想であって現実と相容れない。

プーチンはドル基軸制廃止を口にするが、習近平は口にせず、ペトロダラー(ドルを中東原油取引の独占通貨とする)のなし崩しを諮っている。

すでに中東の天然ガスは人民元で取引されるようになったし、サウジアラビアとの原油取引の一部は人民元決済となった。

アメリカはサウジアラビアや中東湾岸諸国の安全保障と引き換えにペトロダラーを得たが、2021年9月アフガンを最後に米軍は中東から撤退したので最早アメリカはサウジアラビアと他の湾岸諸国の安全保障が出来なくなった為ペトロダラーの特権が消滅しかかっている。

ドルの価値を支えてきたペトロダラーが消滅すると、糸が切れた凧のように地面に墜落する。

今までドルと人民元に起こっていることを見れば誰でも人民元の勝利と思うだろう。

しかしたとえペトロダラーが廃止され、ドル市場に人民元の覇権が拡大されたとしても人民元はドルに絶対に勝てない！

それは人民元がドルにペッグしているからである。

日本は1974年に対ドルペッグ(1ドル360円)を解消し、以後対ドル変動相場制になっているが中国は、為替介入をしながら1ドルに対して人民元7.35を維持する管理変動制をとっている。

準対ドルペッグ制である。

日本は経済自律と共に、戦後日本経済を繁栄に導いた対ドルペッグ制を廃止したが、中国のGDPは購買力平価ではアメリカを2017年以降抜いているにも関わらず事実上対ドルペッグ制を維持してアメリカから利益を吸収し続けている。

つまり中国(子供)はまだアメリカ(母親)の背中に乗ってお乳を飲み続けているのである。

アメリカ(母親)は制裁を掛けて中国(子供)を背中から降り落そうとするが中国は親(アメリカ)にしがみついで離れない。

人民元がドルにペッグしている限り「ドル・人民元戦争」などあり得ないのである。

ここどころアメリカのプリンケン国務長官、イエレン財務長官、超大物キッシンジャーまで訪中しているのは、今度は成人した子供(中国)が弱くなった母親(アメリカ)を背負う番ではないかと説得する為である。

表向きは米中冷戦も米中通貨戦争も、本当のところはないのである。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。